



授業設計の参考に

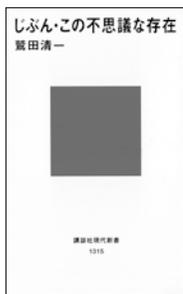
「誰かの代わりに」の教材研究や授業設計の際に役立つ書籍をご紹介します。

筆者のものの見方・ 考え方を知らるために

じぶん・ この不思議な存在

鷲田清一／講談社

「わたし」とは誰？という問いについて、現代社会のさまざまな場面を切り取りながら、他者との関係性の中に「解」を探していく。本書を通して、「じぶんらしい」とはいったいどういうことなのか再考してみたい。



考え始めた 中学生に向けて

いっしょにいきるって、 なに？

オスカー・ブルニフィエ／西宮かおり訳／重松 清 監修／朝日出版社

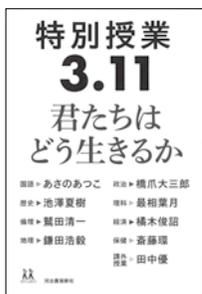
日常の中で子どもが抱く素朴な疑問。単純なようで、実は深い意味をはらみ、簡単に答えることは難しい。そうした疑問に本気で取り組み、考えていこうとする人におすすめの1冊。



特別授業 3.11 君たちはどう生きるか

鷲田清一 他／河出書房新社

「誰かの代わりに」の原案となった鷲田氏の「倫理」の授業を収録。東日本大震災後に価値観が大きく変容していくなか、多彩な執筆陣が教科に仮託して、われわれがいかに生きるかを共に考える。



14歳からの哲学 考えるための教科書

池田晶子／トランスビュー

身近なことから抽象的な概念まで30のテーマを取り上げ、平易な言葉で読者に問いかけながら、どんどん考えを深めさせていく構成。「深く考えるとは、こういうことなんだ」と気づかせてくれる。



大事なものは 見えにくい

鷲田清一／角川学芸出版

「問い」「問合い」「迷い」など八つの側面から日常の哲学的命題についてわかりやすく語りかけるエッセイ集。「自己の存在理由」や「受け身」「相互依存」など、「誰かの代わりに」のキーワードについての考察も。



哲学ってなんだ 自分と社会を知る

竹田青嗣／岩波書店

自分や自分の周りにある当たり前のことをもう一度見つめ直し、自分の言葉で捉え直すための方法——筆者はそれを「哲学」とよぶ。「『批評』の言葉をためる」(3年P73)の筆者による哲学入門書。

